

『早く戦争終わってほしい』

ロシア侵攻に抗議の街宣 多くの市民の声



社民党喜多方耶麻総支部では3月11日・14日の両日に、喜多方市内や西会津町で「ロシアによるウクライナ軍事侵攻及び原発攻撃に抗議し、戦争反対・平和を実現するための街頭宣伝行動」を行いました。

買物等で行きかう方々に「ロシアの軍事侵攻反対・安倍の核兵器シエラ発言許さない」標語貼付



軍事侵攻に抗議の街頭宣伝

マスや「いかなる理由があるとしても、主権国に軍事力を使用することは国際法に違反し、断じて認められない。社民党として厳しく抗議する」という内容の党全国連合幹部幹事長の談話と、「ロシア軍によるウクライナ原発への攻撃に対する抗議声明」を配布しました。

多くの市民の皆さんからは「連日放映される惨状の映像を見せられ、とにかく早く終わってほしい」との思いがつのる声が多く寄せられました。一方で通行中の若い方に声を掛けましたが、無反応で配布物も受け取らない方がいたこととはとても心配になりました。

度重なる戦闘シーンの放映や国際的な「制裁合

戦」等「出口が見えない影響もあるのでは」と。

度重なる北朝鮮の「飛翔体の報道」を30代の方と話したことがありましたが「あんなのやつちまえばいい」との感想に驚いたことを思い出しました。やはりマスコミ(テレビやネット)の影響は大きいのでは。マスコミは韓国と北朝鮮が未だに休戦状態だということはあまり報道してはくれないのですから。

武力による 解決はない

街頭で訴えた齋藤総支部代表は、喜多方市が非核平和都市宣言をしていること、そしてロシアによる核攻撃を匂わせる発言

に「安倍晋三元首相を始め政権等の強権派が米国と日本の核兵器シエラを言いだしていること」に警鐘を鳴らしました。

日本国憲法9条は「正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する」と謳っています。日本が引き起こした過去の侵略戦争の反省から生まれたこの憲法9条の理念は、まさに今日国際社会での崇高な理念でもあり得ます。社民党はこの立場から一切の戦争に反対です。

- 護憲・平和・脱原発
 - 地域医療の充実
 - 食糧自給向上など
- 人間の安全保障に
連帯
- 耶麻・喜多方地区
平和フォーラム

平和フォーラムとは？

平和運動や、部落解放運動をはじめとする人権運動、合成洗剤追放運動などの環境運動、核兵器廃絶運動や脱原発運動にも取り組む市民団体、前身となる憲法擁護国民連合(護憲連合)に「食とみどり、水を守る中央労農市民会議」が合流、「原水爆禁止日本国民会議」が組織加盟する形で、1999年に統合発足した。1987年の年の「連合」の発足に伴い、労働運動のナショナルセンターの一つであった「総評」が解散され、従来総評が中心となっていた運動(原水爆禁止運動、護憲運動など)も平和フォーラムへ引き継がれた。

耶麻・喜多方地区平和フォーラムは、戦争も核もない平和な、そして人権、環境保護の確立された社会を創ることを目的に憲法の理念を生かし、広範に市民と連携し活動するため、2001年3月に結成された。昨年は、社民党・社民フォーラム(アイ)女性会議と共に「原発汚染水海洋放出反対学習会」を開催した。(事務局は喜多方労働福祉会館内に置く)

自公政権は「新型コロナウイルスの感染拡大の中で、統治能力を喪失していることが明らかになりました。長期にわたる情報を隠へい、理性的な対話を拒絶してきたことの当然の帰結です。また現在の岸田政権においては改憲人向けの議論を加速しようとしています。私たちは、護憲・平和・脱原発・地域医療・食糧問題などを有機的に結合し、開かれた運動に取り組み「人間の安全保障」と呼ばれる運動に連帯していきましょう。